

G空間情報センター

ニュースレター 第50号 2025年7月発行

【目次】

- [1. 自治体業務で普段使いできるデジタルツイン環境（デジタルシティサービス）の機能強化](#)
- [2. 上位アクセス状況\(集計期間：2025.5.1-6.30\)](#)
- [3. 最新のお知らせ](#)
- [4. QGIS のことなら MIERUNE におまかせ！業務で安心してご利用いただけるサポート体制](#)
- [5. GIS 基礎から気候シナリオの WEBMAP 化まで一気通貫で学ぶサイトを公開](#)
- [6. 【作品募集】公共交通オープンデータチャレンジ 2025- POWERED BY PROJECT LINKS -](#)

1. 自治体業務で普段使いできるデジタルツイン環境（デジタルシティサービス）の機能強化



一般社団法人
社会基盤情報流通推進協議会

岩崎 秀司

1. デジタルシティサービスとは

一般社団法人 社会基盤情報流通推進協議会（AIGID）は、これまでの G 空間情報センター等の運営に加え、昨今のスマートシティの取組等の都市全体の高度管理のニーズを受け、東京大学と連携し、デジタルツイン環境を提供していく [デジタルシティサービス](#) を 2020 年 6 月にリリースしました。

その後、AIGID が主催し多くの自治体や有識者が参加する「デジタルスマートシティ研究会」や「都市アプリケーション連携実装研究会（以下、実装研究会）」での議論を踏まえてバージョンアップを図りながら、2023 年 4 月に全国の自治体での利用が可能となりました。

デジタルシティサービスは、自治体ごとに保有している多様なデータを 3D 地図上で可視化等を行うことが可能なデジタルツイン環境です。また、自治体が防災分野や都市計画分野等の施策検討の際

に必要となる共通的な機能を実装した地域共同で利用可能なクラウド型のサービスであり、自治体職員の方々が業務で普段使いできるサービスを目指し、機能強化を図っています。

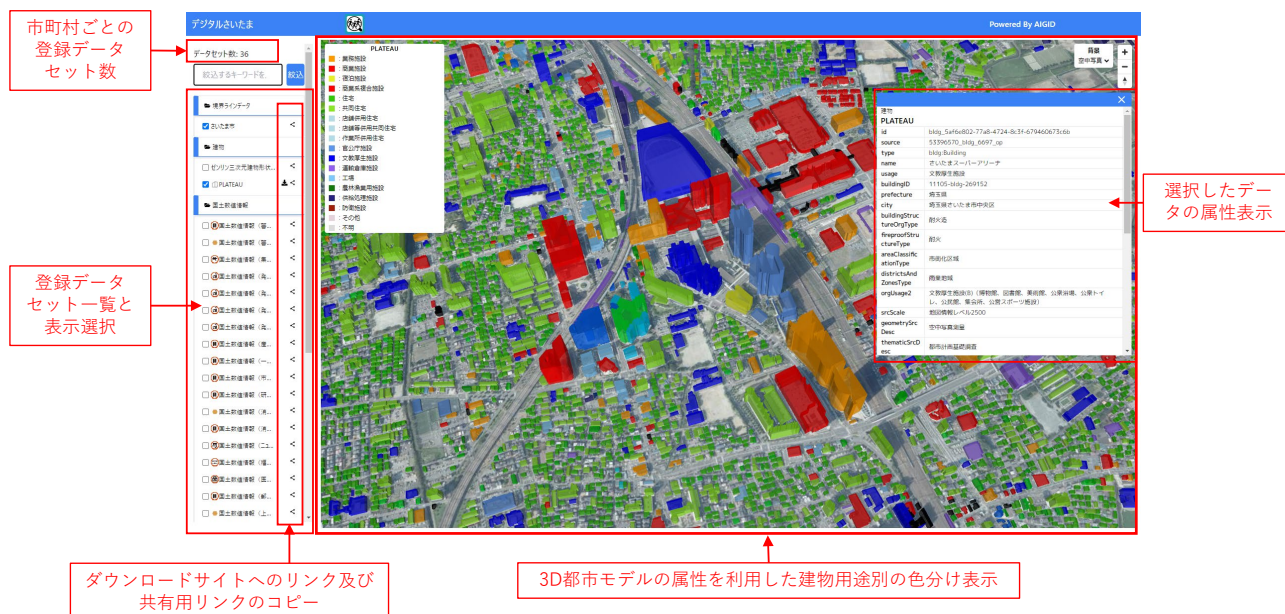


図1：デジタルシティサービスの基本的な画面構成

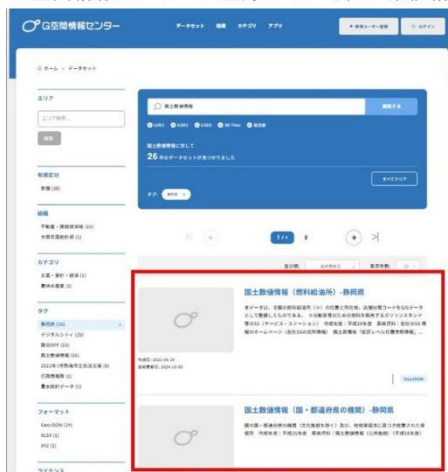
2. デジタルシティサービスの高度化の取組

デジタルシティサービスは、2023年の全国展開後も継続的にバージョンアップを図りながら機能強化を行っています。2024年度には下記に示すような取組を行いました。

(1) G空間情報センターとの連携強化

G空間情報センターに登録しているデータを自動的にデジタルシティサービスに可視化する連携機能の強化を図っています。例えば、G空間情報センターに登録している国土数値情報は、登録されているメタデータをもとに自動的に対象とする自治体を判別し、デジタルシティサービス上に可視化することができるようになりました。

＜G空間情報センターに登録している国土数値情報＞



＜デジタルシティサービス上に自動連係で可視化した情報＞

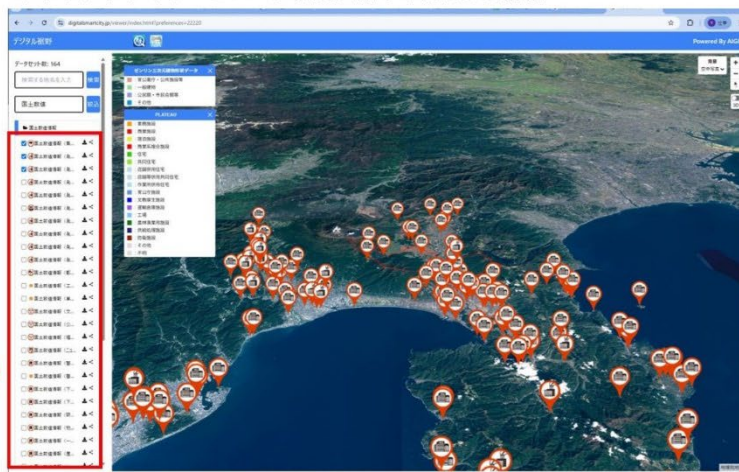


図2：G空間情報センターとデジタルシティサービスの自動連係イメージ

(2) デジタルシティサービスで提供する情報の拡充

デジタルシティサービスの開設後、全国的の自治体で共通的に利用できる情報を対象に可視化する情報の種類を増やす取組を行っています。例えば、2024年度には、GTFS データレポジトリに登録されているバスに関する情報や東京大学の研究成果である擬似人流データなど全国の自治体で施策検討等に活用できる情報を登録し、全国の自治体で閲覧できるようになりました。

＜GTFSレポジトリの可視化例＞



＜レーザ点群データ＞



＜擬似人流データの可視化＞



＜登記所備付地図の可視化＞



図3：デジタルシティサービスで提供する情報の強化

(3) レスポンシブデザインへの対応

デジタルシティサービスのサイトは当初 PC 向けに設計されており、スマートフォンなどで表示すると見づらいという問題がありました。そのため、スマートフォンやタブレット端末でも利用しやすいサイトとするため、レスポンシブデザインの導入を行い、いつでもわかりやすく利用できる環境となりました。

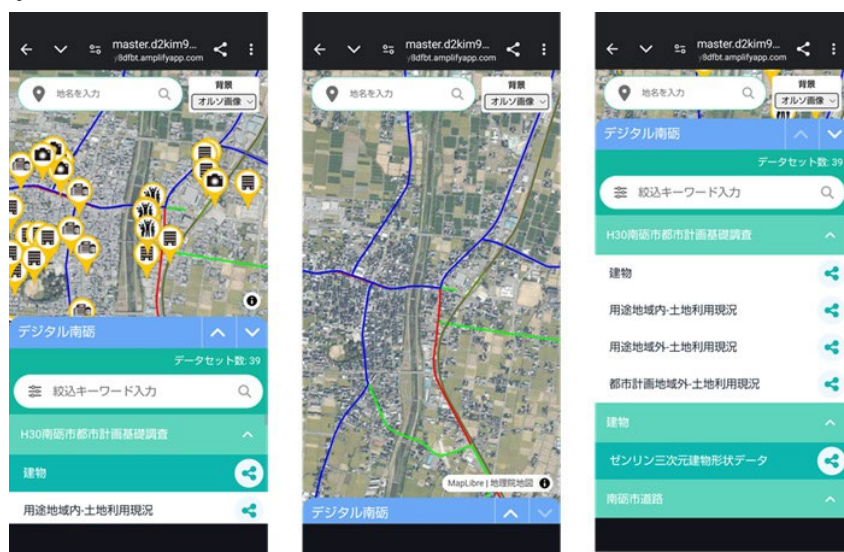


図4 スマートフォンで表示したデジタルシティサービス

3. 2025 年度以降の今後の取組

デジタルシティサービスは、3D 地図上でのデータの可視化だけではなく、デジタル田園都市国家構想の政策などにあわせて、都市の課題解決につながる様々なアプリケーションやシミュレーションとの連携を目指して、真のデジタルツインの機能を強化しています。

2025 年度は、デジタルシティサービスを利用した「開発許可申請の効率化」及び「建物振動シミュレーション」に関するアプリケーションの実装を目指し、自治体で普段使いできるサービスとしてさらなる開発を進めていく予定です。

2025 年度の実装研究会は、デジタルシティサービスを利用した「開発許可申請の効率化」及び「建物振動シミュレーション」のアプリケーションに興味のある約 50 団体の自治体の方に参加いただき、意見交換等を行いながら実装を行いつつ、自治体で普段使いできるサービスの実現を目指していきます。デジタルシティサービスの今後の展開や取り組みにご期待ください。

「デジタルシティサービス」や「都市アプリケーション連携実装研究会」の取り組みにご興味のある自治体の方は、以下にお気軽にご連絡ください。

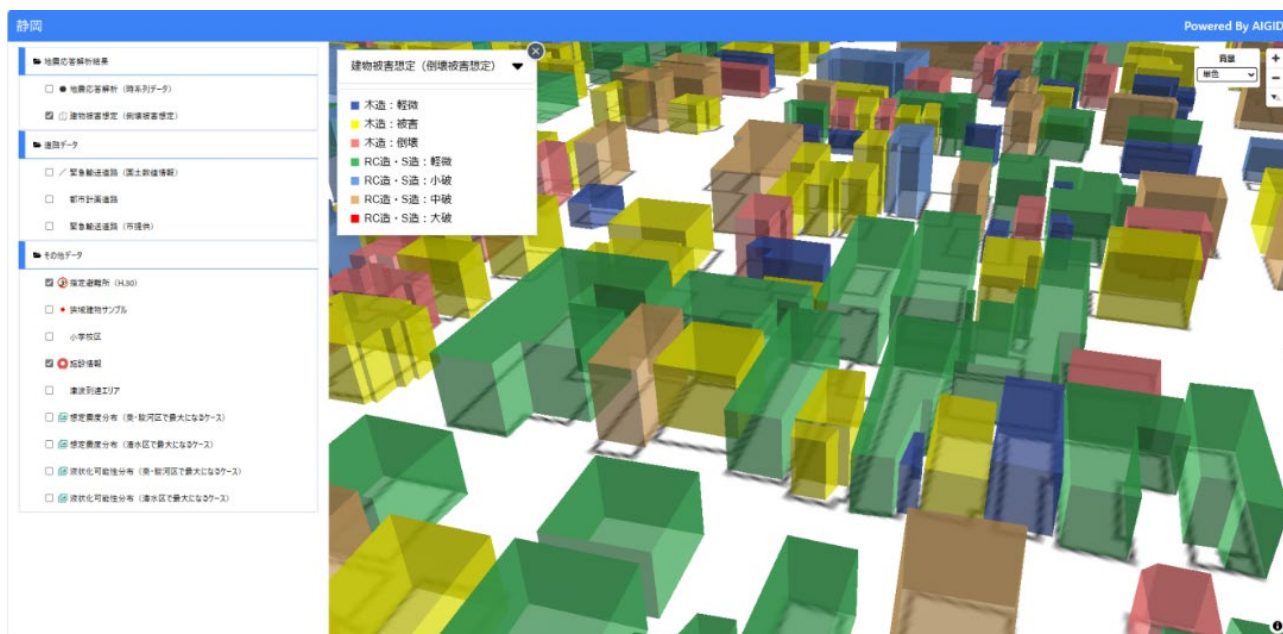


図5：建物振動シミュレーション結果の表示イメージ

■本件お問い合わせ先

デジタルシティサービス事務局：cpod-info（アットマーク）aigid.jp

2.上位アクセス状況(集計期間：2025.5.1-6.30)

登録ユーザー数	113,770 名
期間アクセス数	956,097
登録組織数	713 件
データセット数	14,588 件
ファイル数	95,554 件

人気のデータセット

1	VIRTUAL SHIZUOKA 静岡県 中・西部 点群データ
2	林野庁・CS 立体図（能登地域 2024）
3	山梨県点群データ（航空 LP・MMS）
4	長野県_CS 立体図
5	2021 年 7 月 3 日静岡県熱海市土石流災害ドローン ALB 計測データ
6	3D 都市モデル（Project PLATEAU）渋谷区（2023 年度）
7	VIRTUAL SHIZUOKA 静岡県 富士山南東部・伊豆東部 点群データ
8	3D 都市モデル（Project PLATEAU）大阪市（2024 年度）
9	3D 都市モデル（Project PLATEAU）新宿区（2023 年度）
10	3D 都市モデル（Project PLATEAU）港区（2023 年度）

3. 最新のお知らせ

G空間情報センターの最新のお知らせは[コチラ](#)

最終更新順データセット一覧は[コチラ](#)

*リンクを開く際、少しお時間がかかる場合があります。

4. QGIS のことなら MIERUNE におまかせ！業務で安心してご利用いただけるサポート体制

QGISのことならMIERUNEにおまかせ！

＼ QGISに関する豊富な知識と経験で皆様のQGIS導入をサポートします ／

QGISの MIERUNE
▼
貢献と情報発信

使えるようになりたい
▼
QGIS研修

処理を効率化したい
▼
プラグイン開発

上手に活用したい
▼
QGISサポート

株式会社 MIERUNE では、オープンソースのデスクトップ GIS ソフト「QGIS」の導入支援を実施しています。

QGIS とは？

誰でも自由に利用が可能なオープンソースのデスクトップ GIS ソフトウェアで、位置情報データの可視化や編集、分析に関する豊富な機能を備えています。

Geospatial.jp Newsletter No.50 2025

5 / 8

MIERUNE では、昨年 12 月のニュースレターでご紹介した QGIS に特化した総合情報サイト「QGIS LAB by MIERUNE」をはじめ、QGIS を安心してご利用いただくためのサービスをご用意しております。

1. 現場のプロが講習会形式でわかりやすくレクチャーを行う「QGIS 研修」
2. 有償で効果的な操作方法と活用方法のサポートを行う「QGIS サポート」
3. 業務の迅速化・効率化を目的とした拡張機能の開発を行う「プラグイン開発」

以上を通じて、QGIS への移行やさらなる業務効率化が可能となります。

QGIS LAB では、QGIS を業務で安心してご利用いただくための方法や MIERUNE の QGIS 導入支援ラインナップをご紹介します。

詳しくは[こちら](#)

■お問い合わせ先

株式会社 MIERUNE <https://www.mierune.co.jp/contact>

5. GIS 基礎から気候シナリオの WebMap 化まで一気通貫で学ぶサイトを公開

国立環境研究所 気候変動適応センターでは、株式会社 MIERUNE さんと共同で、GIS 初学者の方向けに「GIS 基礎から気候シナリオの WebMap 化まで一気通貫で学ぶ」サイトを公開いたしました。

<https://adaptation-platform.nies.go.jp/data/qgis/index.html>

<特徴>

- ・ 6 つのステップ毎に「目標」と「学習時間」を記載し、学習計画が立てやすい
- ・ GIS の基礎知識習得から、QGIS の操作方法（データ表示～Web 形式出力）まで、一気通貫で学ぶことができる

また、将来の気候予測や気候変動影響予測に係るデータや、ArcGIS online の手順書等も公開・提供しております

■気候変動の将来予測 WebGIS

<https://adaptation-platform.nies.go.jp/webgis/index.html>

■将来予測データの指標一覧と入手方法

https://adaptation-platform.nies.go.jp/webgis/web_gis.html

■WebGIS によるデータ収集・共有・発信（ArcGIS online 手引書）

<https://adaptation-platform.nies.go.jp/data/arcgis/index.html>

ぜひご利用ください。またご質問・ご意見等もお待ちしております。

■お問い合わせ先：

国立環境研究所 気候変動適応センター 浅野絵美 a-plat@nies.go.jp

6. 【作品募集】 公共交通オープンデータチャレンジ 2025- powered by Project LINKS -

第6回目を迎える『[公共交通オープンデータチャレンジ 2025- powered by Project LINKS -](#)』は、国土交通省主催（共催：AIGID 他）のアプリケーション・コンテストです。

本コンテストは現在作品を募集中です。個人・グループ・法人を問わず誰でも複数の作品応募が可能です。

賞金総額は、なんと 300 万円！

詳しくは下記リンクよりご確認ください。

[公共交通オープンデータチャレンジ 2025（特設サイト）](#)

G 空間情報センターお役立ち情報

◆ G 空間情報センター F A Q は [こちら](#)

法務省登記所備付地図データ関連の情報等、よくあるお問い合わせを掲載しております。

◆ [G 空間情報センターの YouTube チャンネル](#) をご活用ください☆

G 空間情報センターの使い方解説や、最新データセットの公開ご案内等、動画でご案内しております。チャンネル登録いただきますと、新しい動画の公開通知等が取得可能です。ぜひご活用ください。

◆ G 空間情報センターサイトからの [お問い合わせ](#) は、該当の **データセット名** と **URL** を併せてご連絡いただくとスムーズです。

可視化データ例募集！

G 空間情報センターでは、現在メールマガジンに掲載させていただける可視化データ事例を募集中です。

G 空間情報センターに掲載されているデータで可視化イメージを作成された方、ぜひこの機会に G 空間情報センターメールマガジン読者にシェアしていただませんか？

掲載の折には、細やかながらお礼を申し上げます。

■ご連絡先

メールマガジン担当：保坂 hosaka@aigid.jp

ご意見・ご要望について

G 空間情報センターは、高度な地理空間情報社会の実現と皆さまの事業の発展に寄与・貢献できることを目標としています。

当センターへのご要望、ご意見、ご助言等ございましたら、遠慮なくご連絡ください。

最後までお読みいただき、ありがとうございました。

G 空間情報センターのユーザーアカウント登録は、[こちら](#)

G 空間情報センターのご要望、ご意見は、[こちら](#)

G 空間情報センター

一般社団法人 社会基盤情報流通推進協議会(AIGID)

〒151-0053 東京都渋谷区代々木 1-10-5-304

Email : info@geospatial.jp

※当ニュースレターの内容、テキスト、画像等の無断転載・無断使用を固く禁じます。